

極地も、職場。

南極観測隊。1956年の第1次隊からISUZUはその活動を支えている。

「結果て」という言葉がこれほど似合う場所があるだろうか。南極・昭和基地。ここでは、ディーゼルエンジンの停止は決して許されない。それは観測への影響だけでなく、ときに隊員の生命まで危険にさらすことになるからだ。ブリザードが何日も続くことがある。大陸の奥地まで1,000km移動することもある。極度に過酷な環境では、毎日がトラブルとの戦い。雪上車や発電機の点検、整備、修理はもちろん、溶接や電気など、機械に関するあらゆることがISUZUの隊員に任せられる。メンテナンスは生命線。60年たった今でも、それは何ひとつ変わることはない。常識や想定をこえる極限の地で、最後に頼れるものは、人と技術だった。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

